

第2回本邦研修 事前説明会

昨年に引き続き、11月7-23日の17日間、第2回本邦研修を実施します。タイ国で人身取引の第一線で取り組んでいるMDTメンバー15名が、

日本で人身取引対策に取り組んでいる様々な機関を訪問し、意見交換を行います。タイからの参加メンバーは、カウンターパートであるBATWC



からはもちろんのこと、男性用長期滞在シェルターの所長や緊急シェルターのスタッフ、チェンライとパヤオの県事務所などの社会開発人間安全保障省関係者だけでなく、警察、入管、労働省、検察、NGOなど多様なMDTメンバーで構成されています。昨年度は、社会開発福祉局副局長を団長にしたハイレベルの参加者が多かったのですが、今年度は実務者レベルの若手も参加します。

研修への出発を1週間前に控えた10月29日に参加者向けの事前説明会を行いました。参加者15名全員が集合し、研修の目的やスケジュールの説明などを集中して聞いていました。

BATWC サワニー部長が研修の目的を、プロジェクトのフォーカルポイントであるポンパンさんがスケジュールを説明しました。二人とも昨年の第1回目の研修に参加しただけのことがあり、経験に基づいて、分かりやすくかつ丁寧に説明を行い、参加者からの質問にも的確に答えており頼もしく思いました。このように経験が継承されていくことは重要だと実感したところです。

昨年度の教訓を踏まえ、本年度は事前に少しでも多くの情報を渡しておくべく、日本の政府の組織図や県別地図を配布し説明しました。また、主な宿泊先となるTICの宿泊施設の説明などロジスティックなことも伝えました。

今回の研修が昨年度と大きく異なる点は、全国シェルターシンポジウムへ参加することです。シンポジウムでは、タイから

の参加者もMDTアプローチの説明やBATWC管轄下の長期および緊急シェルターが提供している被害者保護のためのサービスについての紹介をすることになっています。シンポジウムの参加者との意見交換やネットワーキングなど、今回の研修ならではの成果も期待されます。

本研修はタイ側、日本側それぞれの政府およびNGOが、お互いに人身取引対策に関する様々な取り組みを学ぶよい機会になることと思います。帰国後、12月24日には、MDTの他のメンバーに向けて帰国報告会を開催することになっており、参加者がどのような成果を持ち帰るか楽しみです。日本で研修生の受入れにご尽力下さっている皆さまお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。